

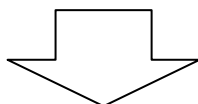
美しい“ふじのくに”まち・ひと・しごと創生県民会議

- ・喫緊の課題である人口減少対策に関し、「地方人口ビジョン」、「地方版総合戦略」を策定する(秋頃を目途)。
- ・産(産業)学(教育・学術)官(行政)金(金融)言(マスコミ)労(労働)の代表者で組織する「美しい“ふじのくに”まち・ひと・しごと創生県民会議」を設置、そのうち、「地域会議」として、各地域の課題や特色を踏まえた施策の方向性等を明らかにするために、地域の意見を聴取する。

☆第1回伊豆半島地域会議 4月30日(木)開催 構成員36名出席

＜主な意見＞

- ・特に若い人達が地元に戻ってきてもらえるような、雇用の場の創出が必要(→移住・定住にも繋がる)。
- ・雇用のミスマッチを解消するため、情報提供に工夫が必要。特に若者向けになお一層、インターネットでの情報発信を充実すべき。
- ・まだあまり知られていない伊豆特有の希少な農水産物、地域資源等をブランド化して、流通させるべき。
- ・観光、産業、医療面において道路整備は喫緊の課題、伊豆縦貫道及びアクセス道路を早期に整備すべき。
- ・住民とともに観光客が安心して訪れることのできる防災対策とそのPRが必要
- ・「美しい伊豆創造センター」を中心に、伊豆が一つになる最後にして最大のチャンス。ダイナミックに施策を打っていくべき。



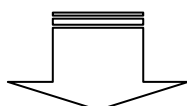
さらに若い世代の意見を聴くなどして、策定する計画や今後の取組に反映させていく。

☆管内各種団体若手会員等と賀茂振興局長との懇談会

6月10日(水)開催

＜主な意見、アイデア＞

- ・伊豆縦貫道などの政策の状況を知りたくて自主勉強会をやっている。
- ・若い人は危機感を持っている。
- ・町域を越えて、団体間の人口減少の合同勉強会を実施している。
- ・伊豆の魅力を発信したい。(伊豆の魅力発信委員会の設立)
- ・商工会伊豆地区連の動きなど、枠を越えて、同世代が集まっている。
- ・ただ、会員が少なく、本業の合間に色々集まっているがメンバーも固定になりがちで大変。(イベント疲れ)
- ・高校生等の若い世代は、自身の市町のことを知らない。人口が少ない今の状態が当たり前で育っており、人口減少問題への危機感が薄いと感ずることから、彼らに対する実態の説明が必要ではないか。また、巣立った先で伊豆の魅力を情報発信する宣伝マンとなってくれるよう育てることが必要。
- ・行政は、持ちかけても応えてくれない。人による差異が大きい。応えてくれる若い職員はいるが、結果は動いてくれない。



- ・官民・民民の連携部会などで検討を行う。
- ・地方創生の総合戦略に反映させていく。

○各団体において、それぞれが実施している活動を、市域町域を越えて結びつけ、より広域・多様化させる。

(例：食の祭典のリレー開催の実施など)

○伊豆の魅力の効果的な発信について、若い世代ひとりひとりを情報発信源・宣伝マンとして育成する。

(例：学生に対する伊豆の魅力発見講座の企画・実施等)

* 地域内の各種団体から推薦のあった若手会員等が出席 *

平成 27 年 6 月 15 日

歴史的建造物の保存・活用における共同の景観まちづくり

1 趣旨

地方創生にむけた魅力ある地域づくりを進めるため、歴史的な建物等の保存活用を地域連携のもと取り組むことで、魅力の多様性や厚みを増していくことで交流人口の拡大を図る。

2 現状

賀茂管内には、なまこ壁の建造物等歴史的な建物が残されているものの、その保存活用には課題も多く、魅力的な観光資源として研究や十分な活用に至っていない。

今後、域内での周遊やDMOなど新たな視点による観光施策を展開するに当たり、こうした今あるものをきちんと活かす取組を推進していくことが重要である。

3 検討事項

歴史的建造物等は、観光資源として潜在性を有するものの、保存活用にかかる人材や資金等多くの資源を有することから、エリア一体の共通資源との認識のもと、そうした建造物等を有する市町が連携して、保全活用の施策に取組ことが効果的であると考えられる。

【考えられる市町連携のメリット（イメージ）】

- ・ 情報発信力の強化
- ・ 市町を越えたエリアで捉えることで一貫した文化・ストーリー性を演出し、DMO等新たな観光商品開発の可能性【量の確保→多様性→魅力の向上】
- ・ 歴史的建造物保存における技術伝承の機会創出【修復ビジネスのマーケット拡大→雇用拡大】
- ・ 観光ガイド等（学芸員、研究者）の共同育成
- ・ 保存組織[設立を前提]の強化（人材の確保）

平成 27 年 6 月 15 日

「地方創生・地域の観光資源の開発等を行う事業」に関する提言（1）

南 伊 豆 町

伊豆半島において、海、海岸線は最大の観光資源であります。

海の清掃について、当町では、海岸線を有する行政区、自治会単位の自助努力によって行われており、また、沿岸海中については、平成 5 年、海の環境変化を危惧する漁業関係者、マリンスポーツ愛好家等で構成されたマリンスポーツ振興会が、平成 6 年にスタートさせた海中クリーン作戦が、年に 1 回ずつ、形こそ変われ、今も続いています。海中からのゴミは、多い年には 700 キロ以上が揚がってまいります。

平成 27 年 3 月 13 日、県海岸漂着物等対策事業説明会が開催され、「平成 27 年度海岸漂着物等地域対策推進事業」の提言をいただきました。残念ながら当町は申請に手を挙げることはできませんでしたが、海岸漂着物の問題、海岸清掃の問題が解決しているから、という訳ではありません。

今でも常にこの問題を抱えておりますし、伊豆の各自治体が皆、同じ問題を抱えていると思います。

伊豆の海岸線は、当然のことながら全てつながっております。どこか一つの浜がきれいになっていけばそれでよい、というものではありません。伊豆全体が一つになって、伊豆半島すべての海岸線を磨き上げる事業に取り組み、伊豆半島を日本一海岸の美しい半島にすることは、反復事業に疲弊しがちの各地域の励みにもなると考えます。年間を通した海岸線から内陸までの活動に、6 月の環境月間にあわせたイベント等を組み合わせれば、低炭素社会の実現、E S D 型事業の広域的起業にもつながるとも思われます。

「日本一美しい海岸線の半島」という称号は、伊豆にとってこの上ない観光資源になり得ます。また、伊豆半島ランドデザインにも合致してまいります。

伊豆半島全域連携による海岸清掃事業の実施を提案いたします。

平成 27 年 6 月 15 日

「地方創生・地域の観光資源の開発等を行う事業」に関する提言（2）

南 伊 豆 町

昭和 53 年から平成 7 年までの間、伊豆新聞本社から『伊豆の横道』という刊行物が発刊されており、その中で「伊豆国横道三十三観音霊場一覧」が紹介されています。

正直言って私も、この横のつながりは、最近知ったばかりのところですよ。

「霊場めぐり」というのは年寄りがやるもの、というのがこれまでのイメージであったかと思われます。しかしながら今では「聖地巡礼」という類義語が若者の言葉となっています。

これは、クールジャパン、アニメ、漫画文化の影響によるものですが、つまり、やり方によっては、霊場めぐり、三十三観音めぐりが老若男女のレジャーになり得るのではないかと考えることです。

この 33 箇所を巡るルートを再整備できないものでしょうか。今どきの情報提供、特に外国人向けの情報提供は当然のことながらスマートフォンです。広域連携でルートをきれいにつなげることにあわせて、フリーWi-Fi エリアの整備等も行っていけば、三十三観音めぐりが新たな観光資源になるのではないかと考えるところです。

平成 27 年 6 月 15 日

「地方創生・地域の観光資源の開発等を行う事業」に関する提言（3）

南 伊 豆 町

伊豆半島内においては、現在、7つの道の駅が稼働しております。

この7駅は、国交省の提言により組織された「伊豆道の駅ネットワーク」を通して、連携事業を展開中であり、本年度は、国交省から、全駅スタンプラリー実施についての追加提言がありました。

ラリーですので、完歩賞等を用意する訳ですが、町単独事業であれば、ふるさと納税のお礼の品を賞品とすることもできないことはありません。しかしながら7団体の関連ともなりますと、なかなか統制が難しくなっております。

例えばですが、ぶしつけがましくは思いますが、県側から統制のお声掛けをいただき、幾ばくかの資金援助もお願いできれば、県からのふるさと納税のお礼という形が取れ、道の駅側は連携して全ての地域のふるさと納税のお礼の品が載った完歩賞メニューを作れると思います。

ふるさと納税の制度によりまして、地域産品等の売り上げが随分と伸びてきております。アワビ等一部商品につきましては品薄の時期もでてきており、しばらくなかったうれしい状況ともなりつつある気配です。

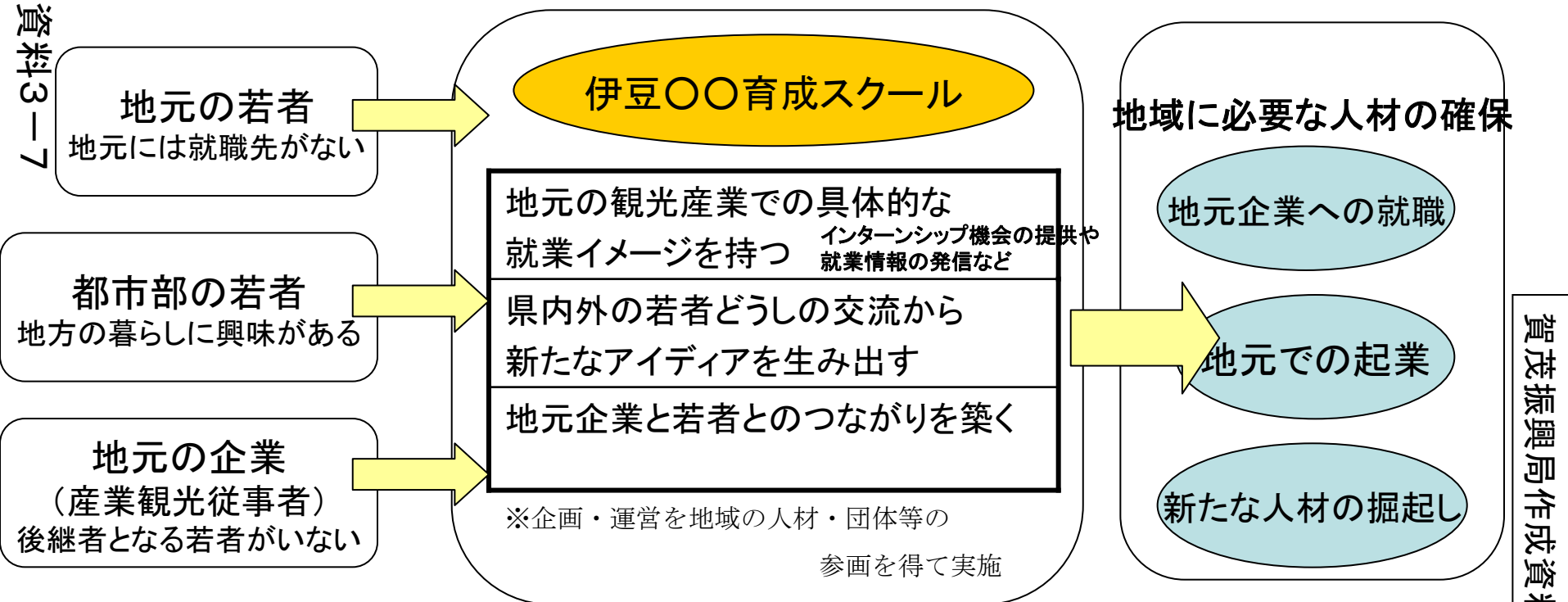
この状況からまた今一步前に進むために、県の後押しをいただき、半島連携の上、事業に取り組んで行けば、地域経済の全体的底上げに大きく寄与すると考えるところです。

総合産業である観光産業の担い手づくり

<事業の目的・概要>

- ・地域の観光産業において求められる若年人材の育成・定着を支援する。
- ・対象：次世代の地域経営者、県内外の若者（大学生・高校生等）
- ・講義内容：①観光産業の後継者が経営及び地域マネジメントを学ぶ
②地元の観光産業従事者を講師として招き、観光業の現状を学ぶ
③フィールドワークを実施し、伊豆地域の魅力や課題を探る
④地域の観光資源を活かしたツアープランを作成する

資料3-7



農商工連携による観光資源の創出

<事業の目的・概要>

- ・南伊豆の地場産品等を販売する機会を定期的に設けることで、観光資源の創出を探る。
- ・賀茂の市への参加を通じて、行政・企業・住民がつながることで、新たな事業やイベントのアイデアを生み出し、地域の活性化につなげる。
- ・開催地：賀茂地域の6市町（各市町が毎月持回りで開催）
- ・出店例：各市町の特産品の販売（農作物・魚貝類・特産品を使用した菓子等）
観光客向けのイベント紹介や宿泊施設の案内

資料3-8

- ・事業を通じた県・市町間の連携強化
- ・住民への広域連携PR、機運の醸成
- ・シティプロモーションの展開・支援

